

なか こう じ い せき
中小路遺跡

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2019

宮 崎 市 教 育 委 員 会

なか こう じ い せき
中小路遺跡

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2019

宮 崎 市 教 育 委 員 会

序

本書は平成 29 年度に宅地造成に伴い発掘調査が実施された中小路遺跡の報告書です。

中小路遺跡は大字島之内字中小路、住吉中学校の西に近接する位置にある遺跡です。また遺跡のすぐ北東側には前方後円墳である県指定「住吉 1 号墳」が所在します。

発掘調査では、近世の土坑や溝、用途は不明ですが中世の大きな落ち込みなどが見つかりました。

先人達の記憶を残した遺跡を記録した本書が、皆様に活用され地域の歴史に触れ学ぶことの一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご理解をいただいた事業者の皆様を始め、寒風が吹く中で発掘調査に従事していただいた作業員の皆様など、発掘調査にご理解ご協力いただきました皆様に感謝を申し上げます。

平成 31 年 3 月

宮崎市教育委員会

教育長 西田 幸一郎

例　言

1. 本書は宮崎市教育委員会が平成29年度に実施した、宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は、宮崎市教育委員会が民間事業者から依頼を受け実施した。
工事届出（文化財保護法第93条）平成29年10月30日
3. 発掘調査は以下の手続きにより実施した。
着手報告：平成30年1月15日（宮教文第776号4） 完了報告：平成30年2月6日（宮教文第776号6）
発見通知：平成30年2月8日（宮教文第776号5） 保管証：平成30年2月19日（宮教文第776号7）
4. 現地における発掘調査、室内整理作業は以下の期間実施した。
発掘調査：平成30年1月9日～平成30年2月5日
整理作業：平成30年10月1日～平成30年11月13日
5. 調査組織
調査主体 宮崎市教育委員会
発掘調査
（平成29年度）

調査総括	文化財課長	羽木本光男
副主幹兼埋蔵文化財係長	井田	篤
調整事務	主　　査	金丸　武司
庶務事務	主　　事	杉尾　悠
調査担当	主任技師	石村　友規
嘱託	今井	直緒

報告書作成
（平成30年度）

調査総括	文化財課長	富永　英典
主幹兼埋蔵文化財係長	井田	篤
調整事務	主　　査	稲岡　洋道
庶務事務	主　　事	杉尾　悠
整理担当	主任技師	石村　友規
嘱託	船石	涼代
6. 掲載した現場図面の実測及び現場写真の撮影は、石村、今井がおこなった。
7. 掲載した遺物の実測、製図は石村、船石、臨時作業員が、遺物の写真撮影は石村がおこなった。
8. 本書で使用する土色の表記は『新版 標準土色帖』による。
9. 本書の図で使用する方位記号はすべて真北を示す。
10. 本書の執筆、編集は石村がおこなった。
11. 出土遺物および掲載図面、写真等は宮崎市教育委員会で保管している。資料の閲覧・利用等に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに ······	1
第1節 地理的環境 ······	1
第2節 歴史的環境 ······	1
第Ⅱ章 調査の成果 ······	5
第1節 調査に至る経緯 ······	5
第2節 調査の経過 ······	5
第3節 調査成果の概要 ······	5
第4節 中世の調査成果 ······	7
第5節 近世の調査成果 ······	8
第6節 その他出土遺物 ······	14
第Ⅲ章 総括 ······	16

表目次

第1表 出土土器、陶磁器、埴輪観察表 ··· 15
第2表 出土石器、石製品観察表 ····· 15

写真図版目次

図版1 調査区全景	及び不明遺構14完掘状況 ··· 18
図版2 不明遺構14出土遺物	及び土坑調査状況 ····· 19
図版3 土坑出土遺物、溝状遺構調査状況	及び溝状遺構出土遺物 ····· 20
図版4 溝状遺構7調査状況及び出土遺物	21
図版5 その他出土遺物 ······	22

挿図目次

第1図 周辺遺跡位置図 ······	2
第2図 中小路遺跡調査範囲図 ······	3
第3図 中小路遺跡遺構配置図 ······	4
第4図 不明遺構14実測図 ······	6
第5図 不明遺構14実測図 及び出土遺物実測図 ······	7
第6図 土坑8実測図 ······	8
第7図 土坑9実測図及び出土遺物実測図 ·	8
第8図 土坑11実測図及び土坑13実測図 ·	9
第9図 溝状遺構1土層断面図 ······	10
第10図 溝状遺構2土層断面図 及び出土遺物実測図 ······	10
第11図 溝状遺構3土層断面図 及び出土遺物実測図 ······	10
第12図 溝状遺構4土層断面図 及び溝状遺構12土層断面図 ··· 11	11
第13図 溝状遺構5土層断面図 及び溝状遺構6断面図 ······	11
第14図 溝状遺構7土層断面図 及び溝状遺構2土層断面図 ··· 11	11
第15図 溝状遺構7出土遺物実測図 ····· 12	12
第16図 溝状遺構10土層断面図 及び出土遺物実測図 ······	13
第17図 その他出土遺物実測図 ······	14

第Ⅰ章 はじめに

第1節 地理的環境

中小路遺跡が所在する宮崎県宮崎市は九州島の南東部に位置する。市域の大部分は、耳川河口～西都～綾～青島を結んだ三角地帯に広がる宮崎平野の南端に位置するが、北西側は九州山地、南西側は南那珂山地が連なる。宮崎平野は主に宮崎層群を基盤としており、宮崎市域では標高20～80mの丘陵（台地）部と、標高10m以下の沖積平野からなる。沖積平野部は自然堤防などの微高地や旧河道などの低湿地が入り組んだ複雑な地形をしている。また、市域の東側は日向灘に面しており、青島以北は30km余りの砂浜海岸となっている。この海岸沿いには4本の砂丘列が形成されているが、内陸部ほどその形成時期は古くなる。また、それぞれの砂丘列の後背には低地が形成されている。

中小路遺跡は宮崎市の北東部、大字島之内の標高9m前後の微高地上に立地する。この微高地は、最も内陸側に形成された第1砂丘よりも西側に位置し、島状に独立した地形となっているが、その基盤層は砂であり、第1砂丘と近しい時期に形成されたものと想定される。今回の調査地は、この微高地の西端付近に所在し、西に100m程度進むと地形が一段下がり、後背低地が広がる。

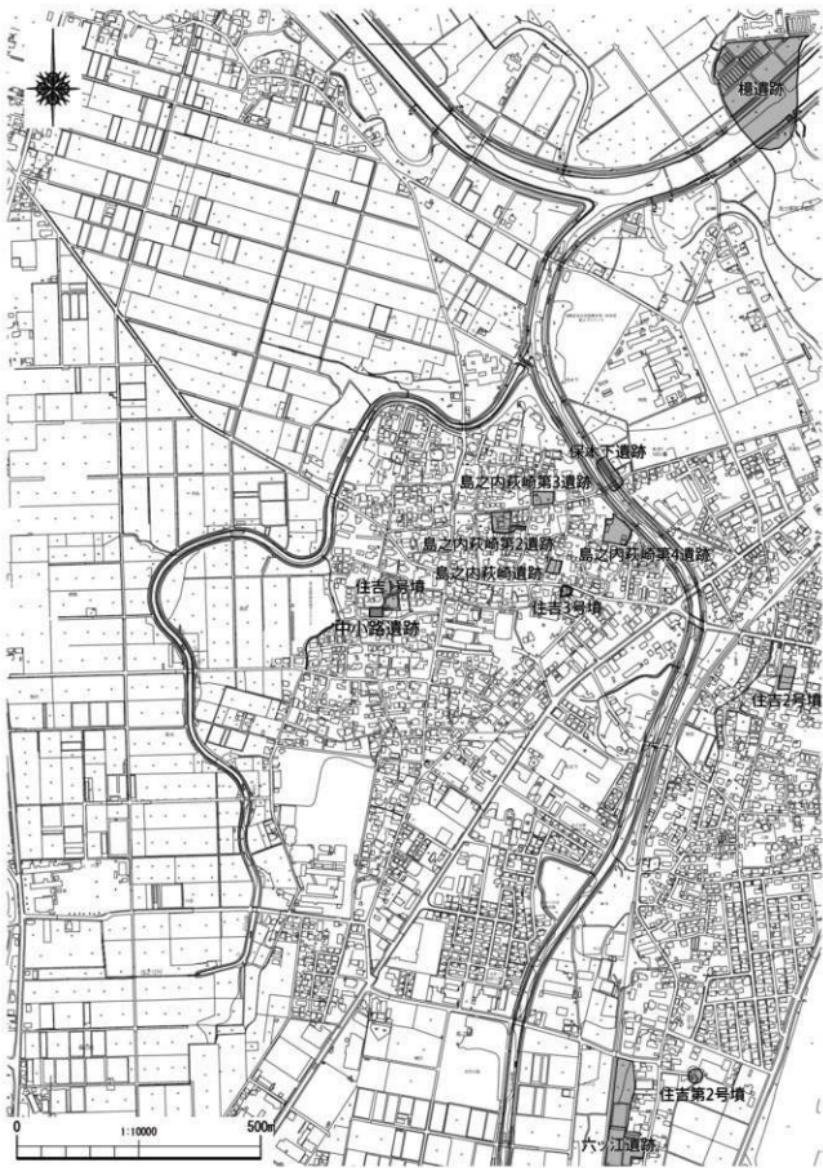
第2節 歴史的環境

中小路遺跡周辺では、中小路遺跡が所在する微高地上と第1砂丘上、後背低地を挟んで内陸側に所在する丘陵部を中心に遺跡が確認されている。

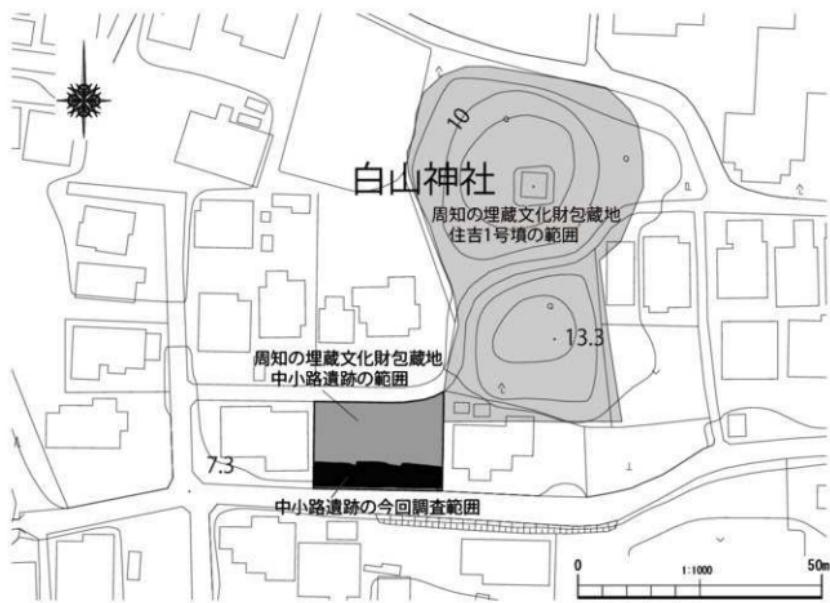
周辺の遺跡で最も時期が遡るのは弥生時代のもので、島之内萩崎遺跡で東西方向に伸びる横断面V字形の大溝など、弥生時代中期を中心とした遺構、遺物が確認されている。また、島之内萩崎第2遺跡では、弥生時代後期の周溝状遺構や近世の溝状遺構が確認され、島之内萩崎第3遺跡では、弥生時代中期の溝状遺構や、近世の溝状遺構などが確認されている。ただし、これらの遺跡に関しては何れも報告書が未刊行であり、正式な位置付けに関しては報告書の刊行を待つ必要がある。

古墳時代になると、中小路遺跡が所在する微高地上や第1砂丘上に住吉古墳群が形成されるが、現在墳丘を確認できるのは住吉1号墳のみである。住吉1号墳は、今回調査地の北東側に隣接する墳長約70mの前方後円墳である。発掘調査はおこなわれていないが円筒埴輪片が表採されており、古墳時代中期中葉に位置付けられている。中小路遺跡が所在する微高地の後背低地の西側丘陵には広原横穴群が所在する。造成工事中に8基の横穴が確認され、その内1号横穴、3号横穴には、人物像を中心とした線刻壁画が描かれている。時期は何れも7世紀中葉頃と考えられている。

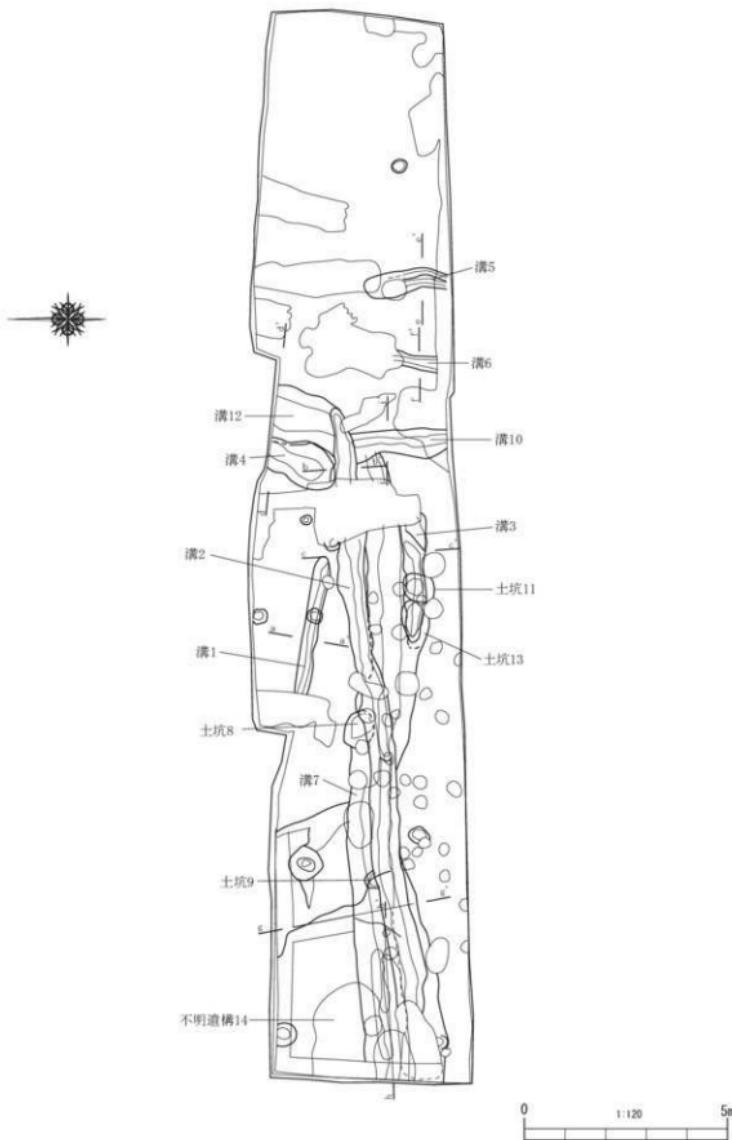
中世では、中小路遺跡が所在する微高地の北側の低地に所在する保木下遺跡において、水田遺構や溝状遺構などが検出されている。



第1図 周辺遺跡位置図(S=1/10000)



第2図 中小路遺跡調査範囲図(S=1/1000)



第3図 中小路遺跡遺構配置図(S=1/120)

第Ⅱ章 調査の成果

第1節 調査に至る経緯

平成 28 年 2 月 4 日、民間事業者から宅地造成に伴い、宮崎市大字島之内字中小路 7505 番 8 における埋蔵文化財所在の有無について照会がなされた。当該地は県指定史跡「住吉村古墳」（住吉 1 号墳）の南西に隣接することから、平成 28 年 4 月 20 日に試掘調査を実施した。調査の結果、多數のピットや溝状遺構、住吉 1 号墳の周溝の可能性がある大型の溝状遺構が確認された。この試掘調査の結果を受け、宮崎県文化財課は新発見の埋蔵文化財包蔵地「中小路遺跡」として平成 28 年 5 月 19 日に登録した。

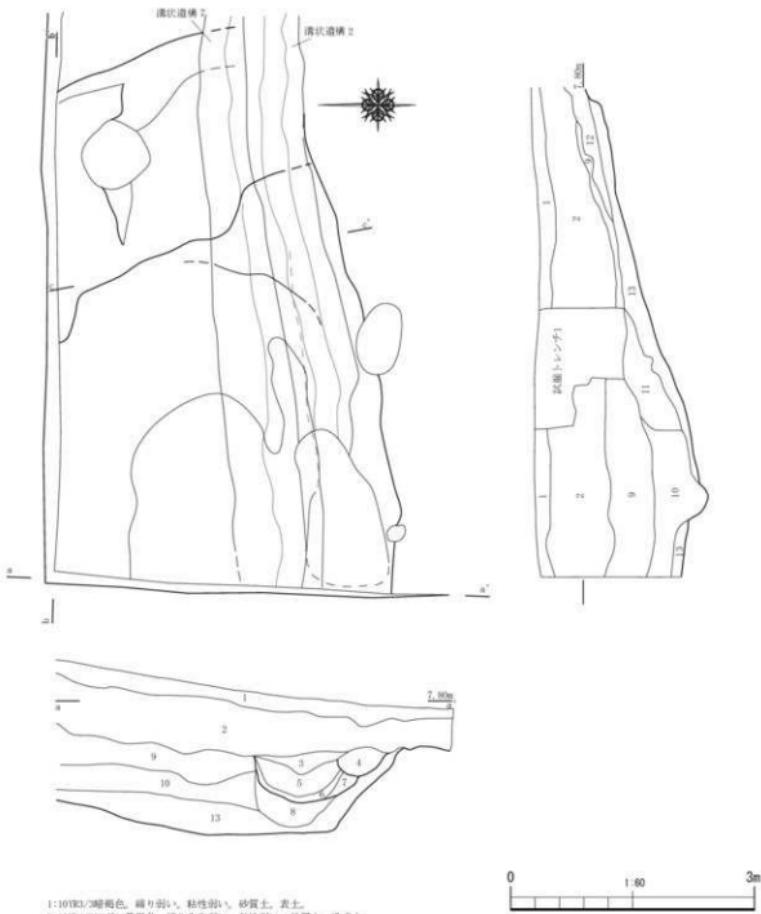
その後、事業者と埋蔵文化財の保存についての協議をおこない、事業地北寄りの宅地となる部分に関しては盛土によって埋蔵文化財を宅地下に保存することができた。一方、事業地南寄りの駐車場用地に関しては、削平により埋蔵文化財への影響が免れないことから、平成 29 年 1 月 9 日から平成 29 年 2 月 5 日にかけて発掘調査による記録保存をおこなった。調査面積は 127 m² である。

第2節 調査の経過

調査はバックホウにより表土を除去し、人力で遺構検出をおこない、検出された遺構を掘削し、記録作業をおこなった。地山や遺構埋土が砂であったため、乾燥すると遺構検出、遺構掘削作業が困難になるため、適宜ジョウロで水を撒きながらの作業となった。また調査区が住宅地内であったため、定期的に水を撒いたりブルーシートで覆うなど調査区や廃土山から砂が飛散しないよう注意を払いながら調査をおこなった。

第3節 調査成果の概要

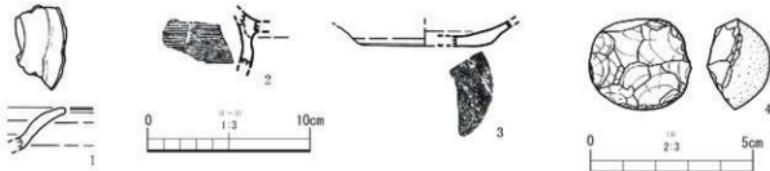
今回の発掘調査では、土坑 4 基、溝状遺構 9 条、不明遺構 1 基、8 基の柱穴が確認された。また、調査以前は民家の庭であったため多数の搅乱が検出された。現況の地形を見ると調査区の南側にある市道が浅い切通のように周囲より一段低くなっている、調査区もそこへ向けて北から南へと下り傾斜となっている。検出された遺構は、不明遺構 14 が中世、その他の遺構は近世段階に位置付けられる。



第4図 不明遺構14実測図 (S=1/60)



- 1:10VER1/3褐色。縦りやや弱い。粘性弱い。砂質土。樹木灰石含む。炭化物微量に含む。湧状遺構2底土。
- 2:10VER4/4褐色。縦りや弱い。粘性弱い。砂質土。地山黄砂約ミナセに含む。炭化物微量に含む。湧状遺構2底土。
- 3:10VER3/4褐色。縦りやや弱い。粘性弱い。砂質土。湧状遺構3地土。
- 4:10VER4/3L25m×4褐色。縦りやや弱い。粘性弱い。砂質土。地山黄砂少々含む。湧状遺構4地土。
- 5:10VER5/4L25m×4褐色。縦りやや弱い。粘性弱い。砂質土。地山黄砂多量に含む。湧状遺構5地土。
- 6:10VER5/4H褐色。縦りやや弱い。粘性弱い。砂質土。地山黄砂細粒土に含む。湧状遺構6地土。
- 7:10VER4/3L25m×4褐色。縦りやや弱い。粘性弱い。砂質土。地山黄砂細粒土に含む。地砂ブロック含む。不明遺構7地土。
- 8:10VER4/4褐色。縦りや弱い。粘性弱い。砂質土。炭化物少量含む。地砂ブロック含む。不明遺構8地土。
- 9:10VER5/3L25m×4褐色。縦りやや弱い。粘性弱い。砂。不明遺構9地土。
- 10:10VER4/6褐色。縦り弱い。粘性無。砂。地山砂泥入土。不明遺構10地土。



第5図 不明遺構14実測図 (S=1/60)及び出土遺物実測図 (S=1/3, 2/3)

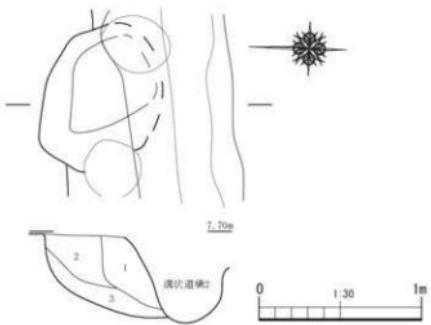
第4節 中世の調査成果

中世段階に位置付けられる遺構は、調査区の西端で検出された大型の落ち込み、不明遺構14のみである。

不明遺構14 調査区の西端で検出された落ち込みである。調査区内で検出された規模は東西4.9m、南北4.0mで、西、北方向は調査区外へと広がっている。深さは0.95mを測り、南側は50°で急激に立ち上がるが、東側は18°でだらだらと立ち上がる。埋土は下位(13層)に流入した地山砂が堆積し、その上位(9、10層)にやや濁った砂が堆積する。

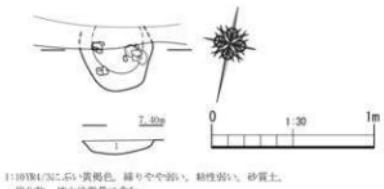
遺物は上位から下位までばらばらと出土する状況で遺物量も少ない。1は龍泉窯の青磁輪花皿である。小片のため施された文様は不明である。2は瓦質土器の羽釜である。内面に粗いハケ調整が施されている。3は土師器坏である。底部はヘラ切後にナデ調整を施している。4はチャート製の火打石である。その他小片のため図化できなかつたが、青磁碗、信楽焼なども出土している。

南壁の状況から人為的に掘削されたものと想定されるが、調査区外へと遺構が伸びることや、自然堆積と思われる埋土の堆積状況から、その性格については判然としない。

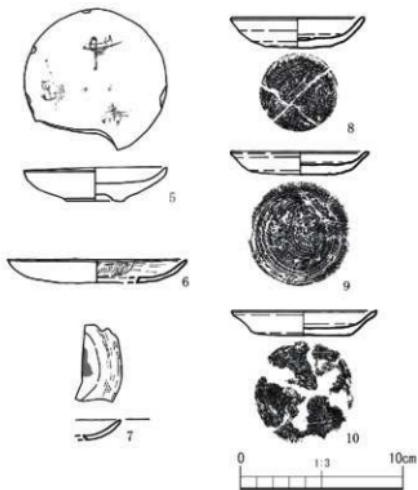


1:10YR4/3Cに近い黄褐色。繊り弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。地山黄砂硬質ブロック含む。
2:10YR4/6褐色。繊り弱い。粘性無。砂。地山黄砂硬質ブロック含む。
3:10YR5/6黄褐色。繊り弱い。粘性無。砂。地山黄砂の流入土。

第6図 土坑8実測図 (S=1/30)



1:10YR4/3Cに近い黄褐色。繊りやや弱い。粘性弱い。砂質土。
鉄化物。地山砂微量に含む。



第7図 土坑9実測図 (S=1/30) 及び出土遺物実測図 (S=1/3)

第5節 近世の調査成果

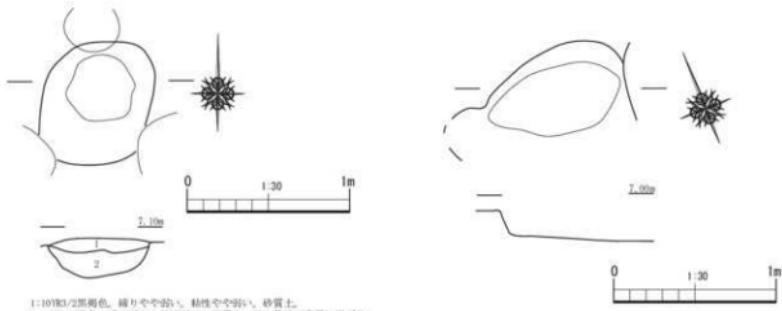
近世に位置付けられる遺構は土坑4基、溝状遺構9条である。遺構埋土は何れも砂、もしくは砂質土で、地山土が流入し堆積した層に関しては地山砂との判別が非常に困難であった。

土坑8 調査区の中央やや西寄りで検出された土坑である。溝状遺構2に切られる。残存している部分から想定される平面形は梢円形で、長軸0.9m、短軸0.7m以上、深さ0.45mを測る。埋土は最初に地山砂が流入し堆積した後、僅かに粘性があるシルトを含む砂が堆積している。

遺物は出土しなかった。

土坑9 調査区の西寄り、溝状遺構2に一部を切られる形で検出された。平面形は円形で径0.42m、深さ0.1mを測る小型の土坑である。

遺物は土師皿と磁器の皿が一部重なった状態で出土した。5は肥前系の皿である。内面に三ヶ所に「壽」が描かれる。口縁端部の一部が欠け、そこに煤が付着していることから、口縁端部の一部を僅かに打ち欠き、燈明皿に転用したと考えられる。6～10は土師器皿である。器壁が薄く手捏ね成形と思われる、外面にユビオサエが目立ち、内面にツマミヨコナデのナデアゲ痕が明瞭に残る6、7と、底部に回転糸切痕が残る輶輪成形の8～10に分類できる。6は残存部位全体が薄く黒変している上に、口縁端部の一部が黒変している。7は残存部位全体が薄く黒変し内底面に煤が付着している。何れも燈明皿として使用されたと考えられる。9は内面が黒変し、10は内面に加え外面の大半も黒変している。10は内外面に煤が付着し、火を受けたとみられる。



第8図 土坑 11 実測図 ($S=1/30$) 及び土坑 13 実測図 ($S=1/30$)

土坑 11 調査区の中央南寄りで検出された。土坑の上位は溝状遺構 3、7 に切られている。平面形はやや歪な円形で、径 0.8 m、深さ 0.2 m を測る。

遺物は古墳時代の土師器壺と思われる細片が出土しているが小片のため図化できなかった。

土坑 13 調査区の中央南寄り、土坑 11 の西側で検出された。土坑 11 と同様に溝状遺構 3、7 に切られている。平面の西側の膨らみは、埋土が類似する別ピットを同時に掘削してしまった可能性が高い。

遺物は出土しなかった。

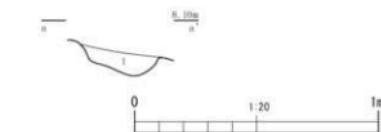
溝状遺構 1 調査区の北西側から中央へ向け伸びる溝状遺構である。直上層は現代の造成土であり、幾つか削平を受けていると思われる。幅 0.3 m、深さ 0.1 m を測る。

遺物は出土しなかった。

溝状遺構 2 調査区の中央やや東寄りから西側へ向かい調査区外へ伸びる溝状遺構である。横断面は U 字形で幅 0.6 m、深さ 0.55 m を測る。下層の埋土は地山砂に非常に近似であることから、比較的短期間に地山砂の流入によって埋没したと思われる。上層は水が流れたと思われる痕跡が確認されるが、砂地のため當時水が流れていたとは考え難く、多量の雨水が流入した時のみ水が流れたのではないかと考える。

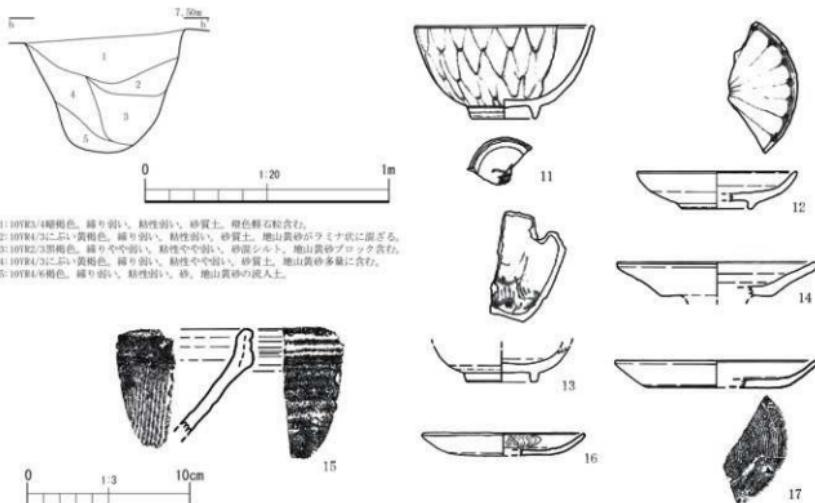
遺物は主に溝上位から出土した。11 は肥前系の碗である。外面に網目文を施す。12 は肥前系の皿である。13 は肥前系の京焼風陶器碗である。見込に呉須で山水文を描く。14 は陶器皿である。体部が屈曲し口縁部に至る。15 は堺、明石系の擂鉢である。16 は土師器皿である。内面にツマミヨコナデ、ナデアゲ痕が明瞭に残る。17 は土師器皿である。底部は回転糸切により切り離している。その他、土師器、青磁、青花、磁器の小片が出土している。

溝状遺構 3 調査区の中央南寄りから西に向かって伸びる溝状遺構である。土坑 11、13 を切る。横断面形はやや歪な逆台形を呈し、幅 0.65 m、深さ 0.4 m を測る。下層においても顕著な地

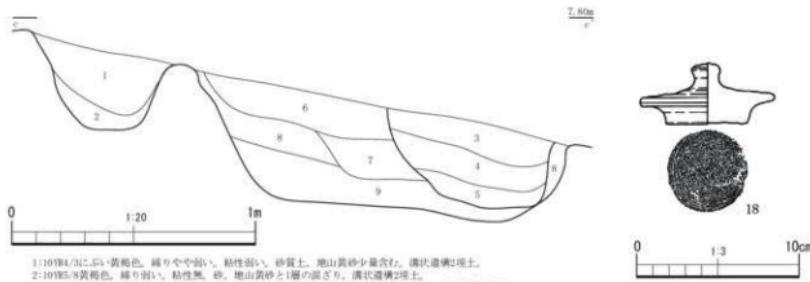


1:10YR3/4暗褐色。繊り弱い。粘性弱い。砂質土。

第9図 溝状遺構1 土層断面図 (S=1/20)



第10図 溝状遺構2 土層断面図 (S=1/20) 及び出土遺物実測図 (S=1/3)



1:10YR4/3にぶい黄褐色。繊りやや弱い。粘性弱い。砂質土。地山黄砂少量含む。溝状遺構2埋土。

2:10YR5/4暗褐色。繊り弱い。粘性弱い。砂。地山黄砂と層の混ざり。溝状遺構2埋土。

3:10YR3/3暗褐色。繊り弱い。粘性弱い。砂質土。暗色鮮石粒。陶化物微量に含む。溝状遺構3埋土。

4:10YR4/3にぶい黄褐色。繊りやや弱い。粘性弱い。砂質土。暗色鮮石粒。陶化物微量に含む。溝状遺構3埋土。

5:10YR4/4褐色。繊りやや弱い。粘性弱い。砂質土。4個と9個の混合層。溝状遺構3埋土。

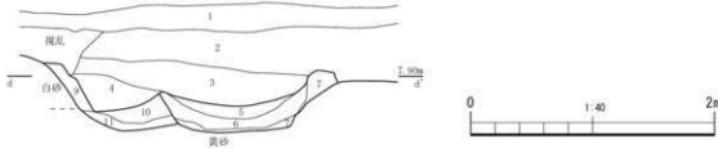
6:10YR4/3にぶい黄褐色。繊り弱い。粘性弱い。砂。溝状遺構3埋土。

7:10YR3/3暗褐色。繊りやや弱い。粘性弱い。砂質土。溝状遺構7埋土。

8:10YR4/4にぶい黄褐色。繊り弱い。粘性弱い。砂。地山砂流土入。溝状遺構7埋土。

9:10YR4/6褐色。繊り弱い。粘性弱い。砂。地山砂流土入。溝状遺構7埋土。

第11図 溝状遺構3 土層断面図 (S=1/20) 及び出土遺物実測図 (S=1/3)

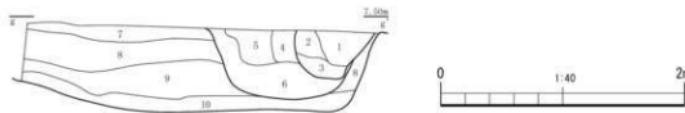


- 1:表土(バラス)
 2:10TR2/3暗褐色。織りやや弱い。粘性弱い。砂質土。褐色鉱石軽食有。客土。
 3:10TR4/4褐色。織りやや弱い。粘性弱い。砂質土。褐色鉱石軽食有。客土。
 4:10TR4/4褐色。織りやや弱い。粘性弱い。砂質土。客土。
 5:10TR4/3(2)5(3)黄褐色。織りやや弱い。粘性弱い。砂質土。地山黄砂少量含む。廣12(1)遺構埋土。
 6:10TR4/4(2)5(3)黄褐色。織りやや弱い。粘性強。砂。地山黄砂の混れ込み。廣12(1)遺構埋土。
 7:10TR5/6黄褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂。地山黄砂の混れ込み。廣12(1)遺構埋土。
 8:10TR8/2(2)白色。織りやや弱い。粘性無。砂。地山白砂の混れ込み。廣4(1)遺構埋土。
 9:10TR6/2(2)黃褐色。織りやや弱い。粘性無。砂。廣4(1)遺構埋土。
 10:10TR6/6明黄褐色。織りやや弱い。粘性無。砂。廣4(1)遺構4埋土。

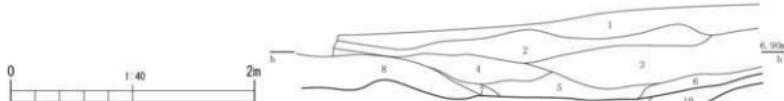
第12図 溝状遺構4土層断面図(S=1/40)及び溝状遺構12土層断面図(S=1/40)



第13図 溝状遺構5土層断面図(S=1/20)及び溝状遺構6断面図(S=1/20)

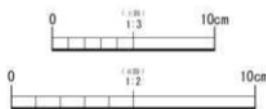
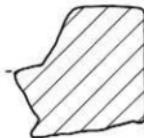
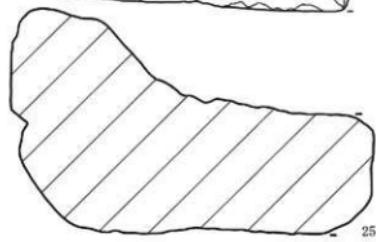
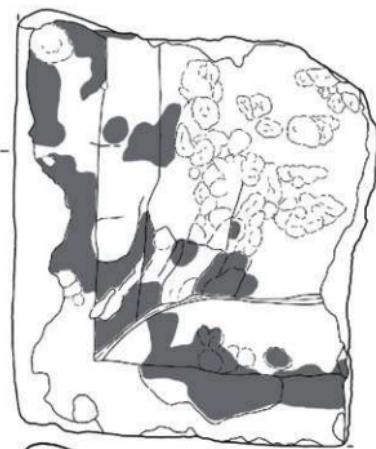
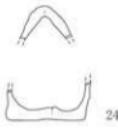
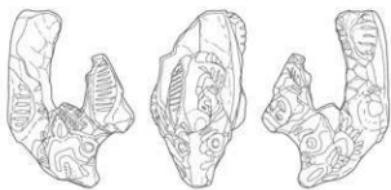
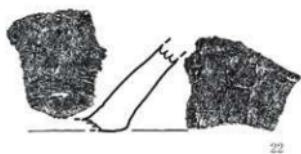
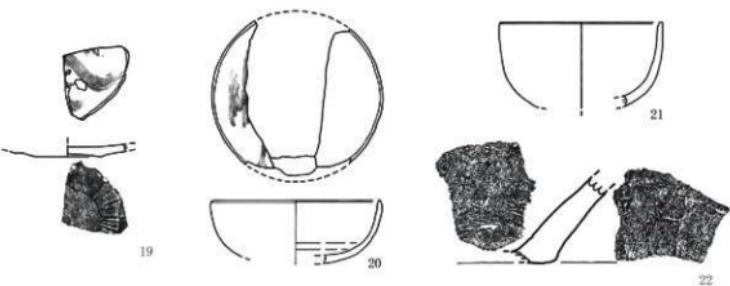


- 1:10TR2/3暗褐色。織りやや弱い。粘性弱い。砂質土。褐色鉱石軽食有。炭化物微量に含む。廣状遺構2埋土。
 2:10TR4/4(2)5(3)5(4)6(5)7(6)8(7)9(8)10(9)1(10)褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質土。地山黄砂少量含む。炭化物微量に含む。溝状遺構2埋土。
 3:10TR5/6暗褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質土。地山黄砂少量含む。廣状遺構2埋土。
 4:10TR4/3(2)5(3)5(4)6(5)7(6)8(7)9(8)10(9)1(10)褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質土。地山黄砂少量含む。廣状遺構7埋土。
 5:10TR5/4(2)5(3)5(4)6(5)7(6)8(7)9(8)10(9)1(10)褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質土。地山黄砂少量含む。廣状遺構7埋土。
 6:10TR3/6暗褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質土。地山黄砂少量含む。廣状遺構7埋土。
 7:10TR4/3(2)5(3)5(4)6(5)7(6)8(7)9(8)10(9)1(10)褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質土。地山黄砂少量含む。炭化物微量に含む。地砂ブロック含む。不明遺構14埋土。
 8:10TR4/2(2)白色。織りや弱い。粘性弱。砂。炭化物少量含む。地山白砂の混れ込み。不明遺構14埋土。
 9:10TR5/3(2)5(3)5(4)6(5)7(6)8(7)9(8)10(9)1(10)褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂。不明遺構14埋土。
 10:10TR4/6褐色。織りや弱い。粘性無。砂。地山砂泥入土。不明遺構14埋土。



- 1:10TR2/3暗褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質シルト。炭化物。地山砂泥。廣状遺構7埋土。
 2:10TR3/4褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質シルト。地山鉱石微量含む。廣状遺構7埋土。
 3:10TR4/3(2)5(3)5(4)6(5)7(6)8(7)9(8)10(9)1(10)褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質土。褐色鉱石微量含む。廣状遺構7埋土。
 4:10TR4/2(2)黃褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質土。地山砂ブロック微量に含む。廣状遺構7埋土。
 5:10TR5/3(2)5(3)5(4)6(5)7(6)8(7)9(8)10(9)1(10)褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質土。下位にラングアン層に沈着。廣状遺構7埋土。
 6:10TR4/1褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂。地山黄砂少量含む。廣状遺構7埋土。
 7:10TR5/3(2)5(3)5(4)6(5)7(6)8(7)9(8)10(9)1(10)褐色。織りやや弱い。粘性弱。砂質土。粘土と黄砂泥。廣状遺構7埋土。
 8:10TR7/4(2)5(3)5(4)6(5)7(6)8(7)9(8)10(9)1(10)褐色。織り有。粘性強。砂。粘土。精良な粘土ではなくやや粒子が粗い。廣状遺構7の粘土を用いた堆。
 9:10TR5/2(2)黃褐色。織りやや弱い。粘性無。砂。不明遺構14埋土。
 10:10TR5/2(2)黃褐色。織りやや弱い。粘性無。砂。地山黄砂が多量に混ざる。不明遺構14埋土。

第14図 溝状遺構7土層断面図(S=1/40)及び溝状遺構2土層断面図(S=1/40)



第15図 溝状遺構7出土遺物実測図 (S=1/3、1/2)



第16図 溝状遺構10土層断面図(S=1/20)及び出土遺物実測図(S=1/3)

山砂の流入は見られない。

18は薩摩焼土瓶の蓋である。切り離しの回転糸切痕が明瞭に残る。その他に、古墳時代土師器片、土師器皿片、尾鈴山酸性岩の磨石と思われる破片が出土している。

溝状遺構4 調査区の中央北壁から南に向かって伸び、調査区中央付近で収束する。横断面形は浅いU字形で、埋土は地山砂の流入土が主体である。幅0.96m、深さ0.55mを測る。

遺物は古墳時代に帰属すると思われる土師器片が2点出土したが、小片のため図化はおこなっていない。

溝状遺構5 調査区の東寄りで地形の傾斜に沿って検出された。横断面はU字形で幅0.45m、深さ0.15mを測る。地形に沿った方向や規模、遺物が出土しなかったことから人為的なものではなく、雨水の浸食により形成された溝と思われる。

溝状遺構6 溝状遺構5と同様に調査区の東寄りで地形の傾斜に沿って検出された小規模な溝である。その方向や形態から人為的なものではなく、雨水の浸食により形成された溝と思われる。

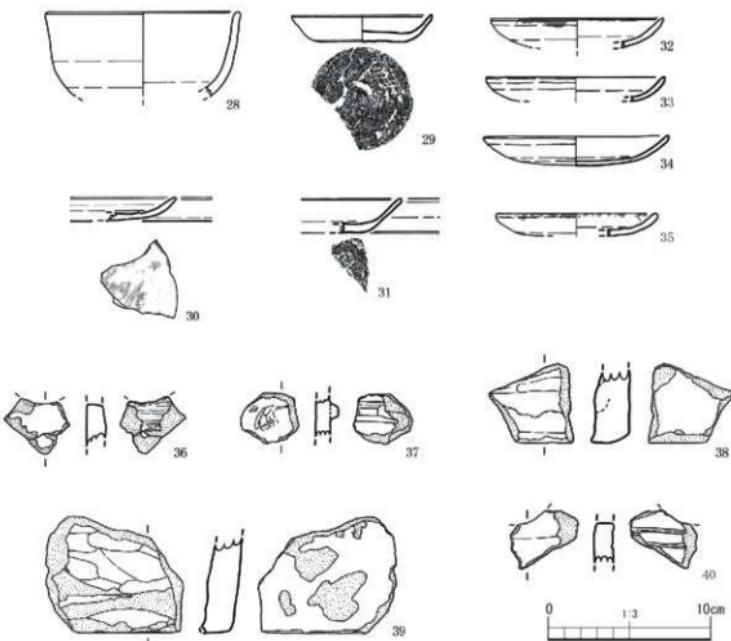
溝状遺構7 溝状遺構7は調査区の東寄りから西に向かって伸びる溝状遺構である。横断面形は角の取れた逆台形で幅1.35m、深さ0.55mを測る。床面は東から西へと緩やかに下降傾斜している。調査区の西端付近において粘土を用いた堰状の遺構を検出した。縦断面を見ると、5層において鉄分の沈着が見られることから一定期間滞水していたものと考えられる。用いられた粘土はにぶい黄褐色を呈し、精良なものではない。

19は青磁皿である。大宰府編年皿I類で12世紀中頃から後半に位置付けられる。20は肥前系の京焼風陶器皿である。呉須により山水文と思われる文様が内面に施文される。21は肥前系の京焼風陶器碗である。22は常滑の甕底部である。23は須恵器甕である。24は陶器水滴である。鯉に乗る琴高仙人をモチーフとする。25、26は凝灰岩製の手水鉢か。

溝状遺構10 調査区中央付近を南北方向に伸びる溝状遺構である。横断面はU字形を呈し、幅0.5m、深さ0.4mを測る。

27は陶器擂鉢である。

溝状遺構12 調査区の中央付近を南北方向に伸びる溝状遺構である。幅1.32m、深さ0.4mを測る。埋土が単層であり、遺物も出土していないことから短期間に埋没したと考えられる。



第17図 その他出土遺物実測図 (S=1/3)

第6節 その他出土遺物

ここでは包含層や表採の遺物を掲載する。28は陶器碗である。29から35は土師器皿である。29は底部回転糸切である。30は手捏ね成形で、内面と口縁部を中心に煤が付着している。31は底部ヘラ切である。32は手捏ね成形で口縁部に煤が付着している。33も手捏ね成形で外面が黒変している。34も手捏ね成形で口縁部に煤が付着している。35も手捏ね成形で器壁が非常に薄い。煤の付着、黒変は見られない。土師器皿の中で煤が付着するものや、黒変しているものは燈明皿として使用されたと考えられる。36から39は円筒埴輪である。36、37は胴部で器壁が薄手である。36は円形透かし孔の一部が残存する。37は突帯が一部残存し、突帯剥離面には突帯設定技法に伴う沈線が確認できる。38、39は底部である。38は底面の外側面を面取り状に削った後にナデ調整を施している。39は底面が比較的平滑である。40は2条の平行する沈線が施され、円形の透かし孔の一部が残存する。盾形埴輪の可能性があるが、小片のため判然としない。

第1表 出土土器、陶磁器、埴輪観察表

測定者 固番号	番号	測定等	種別 器種	底面 口径 (cm)	側面 底径 (cm)	側面 高さ (cm)	色		底成 外面	底盤		出土 (上: ■■■ F: ■■■)		備考	実測 番号			
							外 面	内 面		外 面	内 面	A	B	C	D	E		
p. 7 第5回	1	不明遺構	内面						良好	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉						15世紀半頃～16世紀	28
	2		瓦片上部 引手				灰褐色 2.55cm/1	灰褐色 2.55cm/1	良好	回転ナデ	ハケメ							27
	3		上部器 片	(8.0)			灰褐色 7.57cm/4	灰褐色 7.57cm/4	良好	回転ナデ	回転ナデ						2多	底部ヘラ切後ナデ
p. 8 第7回	5	土器 瓶	8.8	3.6	2.1				良好	施釉	施釉						ハナレナ 地明显として使用	6
	6	土器 瓶	(11.0)	(6.6)	1.4		灰褐色 10cm/2	灰褐色 2.5cm/2	良好	スピオサエ	ツマミヨコナデ						内面にビナデアグ痕	3
	7	土器 瓶				1.2	にぶい・褐 7.5cm/3	にぶい・褐 7.5cm/3	良好	スピオサエ。ナデ	ツマミヨコナデ						内面に煤付着	4
	8	土器 瓶	(8.1)	(4.2)	1.9		にぶい・褐 7.57cm/4	にぶい・褐 7.57cm/4	良好	回転ナデ	回転ナデ、平行ナデ	微傷					底部回転系切	2
	9	土器 瓶	(8.4)	6.2	1.4		灰褐色 10cm/2	灰褐色 10cm/2	良好	回転ナデ	回転ナデ						全面に煤付着	5
	10	土器 瓶	(8.9)	5.8	1.5		にぶい・褐 7.57cm/3	にぶい・褐 7.57cm/3	良好	回転ナデ	回転ナデ						底部回転系切	1
p. 10 第10回	11	土器 瓶	10.7	3.9	5.7				良好	施釉	施釉						肥前 18世紀後半	13
	12	土器 瓶	(9.7)	(4.3)	2.3				良好	施釉	施釉						肥前系 地明显として使用	12
	13	土器 瓶		(4.4)					良好	施釉	施釉						肥前系	10
	14	漢代遺構 2	(12.3)						良好	施釉	施釉						肥前系	11
	15	土器 瓶					灰褐色 8.5cm/1	灰褐色 2.5cm/2	良好	回転ナデ	回転ナデ、彫目						磨・削石系	9
	16	土器 瓶	(10.0)	(6.6)	1.4		にぶい・黄褐色 10cm/2	にぶい・黄褐色 10cm/2	良好	ツマミヨコナデ。ナデ	ツマミヨコナデ、ナデ						内面にビナデアグ痕	7
	17	土器 瓶	(12.3)	(8.3)	1.7		にぶい・褐 7.57cm/4	にぶい・褐 7.57cm/4	良好	回転ナデ	回転ナデ、平行ナデ						底部回転系切	8
p. 10 第11回	18	漢代遺構 3	8.3	4.9	3.7				良好	回転ナデ後施釉	回転ナデ						底部回転系切	14
	19	青磁 瓶		(4.0)					良好	放射状 ケズリ。施釉	施釉、切削						大正初期年量 1類 12世紀中～後半	18
	20	青磁 瓶		10.3					良好	施釉	施釉						肥前系	19
	21	漢代遺構 7		9.8					良好	施釉	施釉						肥前系	17
	22	青磁 瓶					灰褐色 10cm/2	灰褐色 2.5cm/2	良好	ケズリ後ナデ	ナデ						常滑系	16
	23	青磁 瓶					黄褐色 2.5cm/1	黄褐色 2.5cm/1	良好	轆子目タキ	当具瓶						常滑系 型或形	15
	24	青磁 瓶							良好	施釉	ナデ						常滑系 型或形	20
p. 13 第16回	25	津波遺構 10					にぶい・赤褐色 8.5cm/3	にぶい・赤褐色 8.5cm/3	良好	回転ナデ	彫目							25
	26	包含層		12.0					良好	施釉	施釉							34
	27	包含層					にぶい・黄褐色 10cm/3	にぶい・黄褐色 10cm/4	良好	回転ナデ	回転ナデ						底部回転系切	31
	28	包含層					にぶい・黄褐色 10cm/3	にぶい・黄褐色 10cm/4	良好	回転ナデ	回転ナデ						相明顯	37
	29	包含層		8.6	6.0	1.6	にぶい・黄褐色 10cm/3	にぶい・黄褐色 10cm/4	良好	回転ナデ	回転ナデ						底部ヘラ切後ナデ	35
	30	一括					にぶい・黄褐色 10cm/4	にぶい・黄褐色 10cm/4	良好	回転ナデ	回転ナデ						相明顯	32
	31	複疊					にぶい・黄褐色 10cm/4	にぶい・黄褐色 10cm/4	良好	回転ナデ	回転ナデ						底部ヘラ切後ナデ	33
	32	包含層					にぶい・黄褐色 10cm/4	にぶい・黄褐色 10cm/4	良好	回転ナデ	回転ナデ						相明顯	30
	33	一括					オリーブ褐色 2.5cm/3	にぶい・黄褐色 2.5cm/3	良好	ナデ	ヨコナデ						外面黒度	33
	34	包含層		(11.0)	(7.8)	1.7	にぶい・黄褐色 10cm/2	にぶい・黄褐色 2.5cm/2	良好	ナデ	ツマミヨコナデ、平行ナデ							39
p. 14 第17回	35	一括		(10.0)	1.4		にぶい・黄褐色 10cm/4	にぶい・黄褐色 2.5cm/2	良好	ナデ	ツマミヨコナデ						相明顯	36
	36	一括					にぶい・褐 7.5cm/3	にぶい・褐 7.5cm/6	良好	板ナデ	ナデ	1.5 少						38
	37	住吉1号墳 西×内側					灰褐色 10cm/2	灰褐色 2.5cm/3	良好	ナデ	ナデ	1.5 少					突部削付線	40
	38	住吉1号墳 西×内側					にぶい・褐 7.5cm/3	にぶい・褐 7.5cm/3	良好	ナデ	ヨコナデ	1.5 少					底部片	41
	39	住吉1号墳 西×内側					灰褐色 10cm/2	灰褐色 2.5cm/2	良好	ナデ	板ナデ	1.5 少					底部片	42
	40	住吉1号墳 西×内側					にぶい・褐 7.5cm/3	にぶい・褐 7.5cm/3	良好	ヨコナデ	ナデ	1 多						39

参考土 A: 宮崎小石 B: 長石 C: 石英 D: 鹿児島 E: くらみ継

第2表 出土石器、石製品観察表

測定者 固番号	番号	測定番号	遺構等	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測 番号
p. 7	第5回	4	不明遺構 14	火打石	チャート	2.80	3.15	1.95	26.9		29
p. 12	第5回	25	漢代遺構 7	手水鉢	解風岩	(17.4)	(15.0)	(9.2)	1860.0		24
p. 12	第15回	26	漢代遺構 7	手水鉢	解風岩	(8.6)	(6.1)	(5.5)	249		23

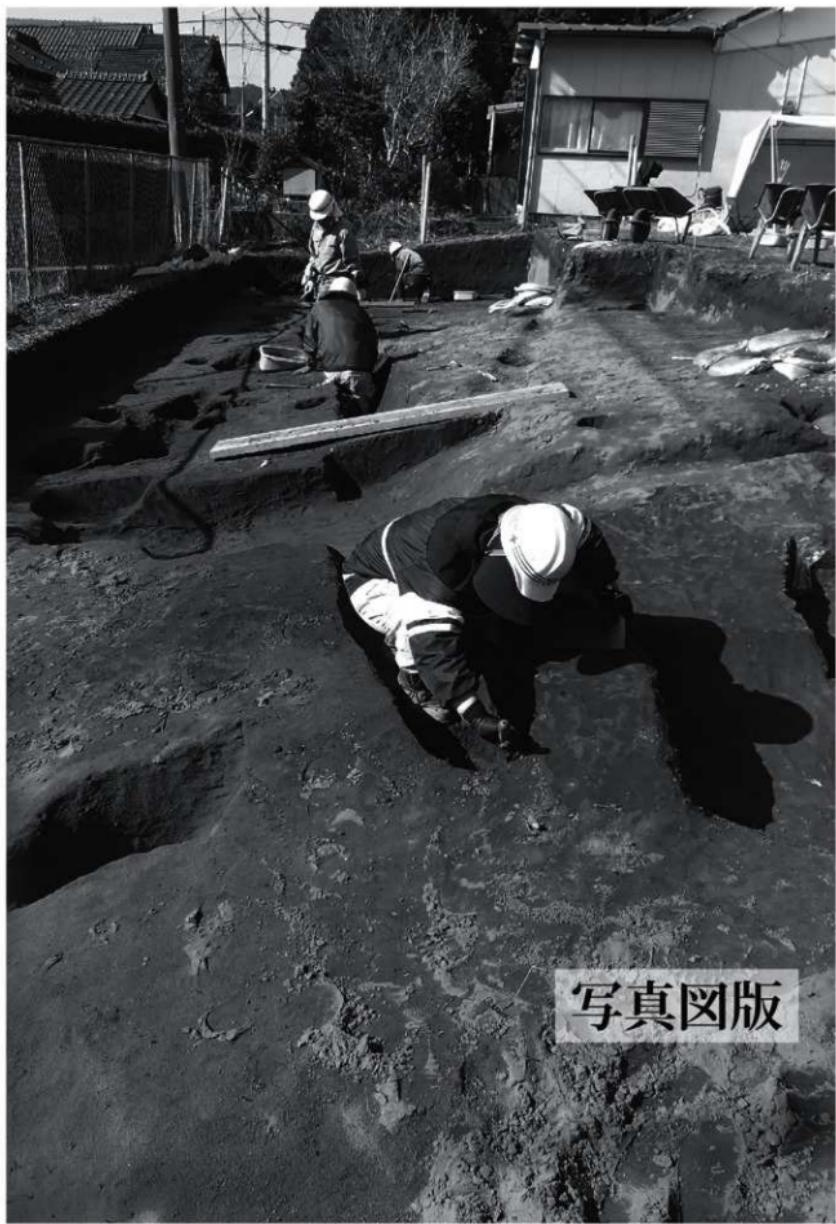
第Ⅲ章 総括

今回の発掘調査では、中世、近世の遺構の調査をおこなった。

中世では、性格は不明であるが大形の落ち込みが検出された。微高地の縁辺部付近ということもあり、自然の落ち込みの可能性も想定したが、南側の壁が、平面形で見ると直線的であり、立ち上がりの角度も 50° と急角度であることから人為的に掘り込まれたものと判断した。

近世は土坑と溝状遺構が検出された。土坑 9 は、土師皿と磁器皿が一部重なるような状況で出土し、地鎮等、祭祀的な用途も想定される。ただし、磁器皿を含め何れも澄明皿として使用されたものであり、今回は検討に至らなかったが、澄明皿として使用したものを祭祀具として再利用する事例があるのか、今後類例の検討が必要である。溝状遺構は、地形の傾斜に沿う南北方向に伸びるものと、地形の傾斜に直交し東西方向に伸びるものに大別できる。地形の傾斜に沿うものの中で、溝状遺構 5、6 といった小規模なものは、人為的なものではなく、雨水の浸食により生じたものと考えられる。地形の傾斜に直交するものは、溝状遺構の床面、壁面が砂となることから区画溝としての役割を想定したが、溝状遺構 7 において粘土を用いた堰状の遺構が確認されるなど、用途が判然としない部分もある。

以上のように、当初想定された住吉 1 号墳に関連する古墳時代の遺構は検出されず、中世、近世の調査成果についても、今回の発掘調査で得られた内容は、決して多いものではない。しかしながら、試掘調査で確認された住吉 1 号墳の周溝と思われる大形の溝状遺構は、事前の調整により宅地下に保存することができた。関連する遺構が確認されなかつたということは、それらが失われずに済んだという事の裏返しでもあり、そこに意義を見出すことができるのではないか。

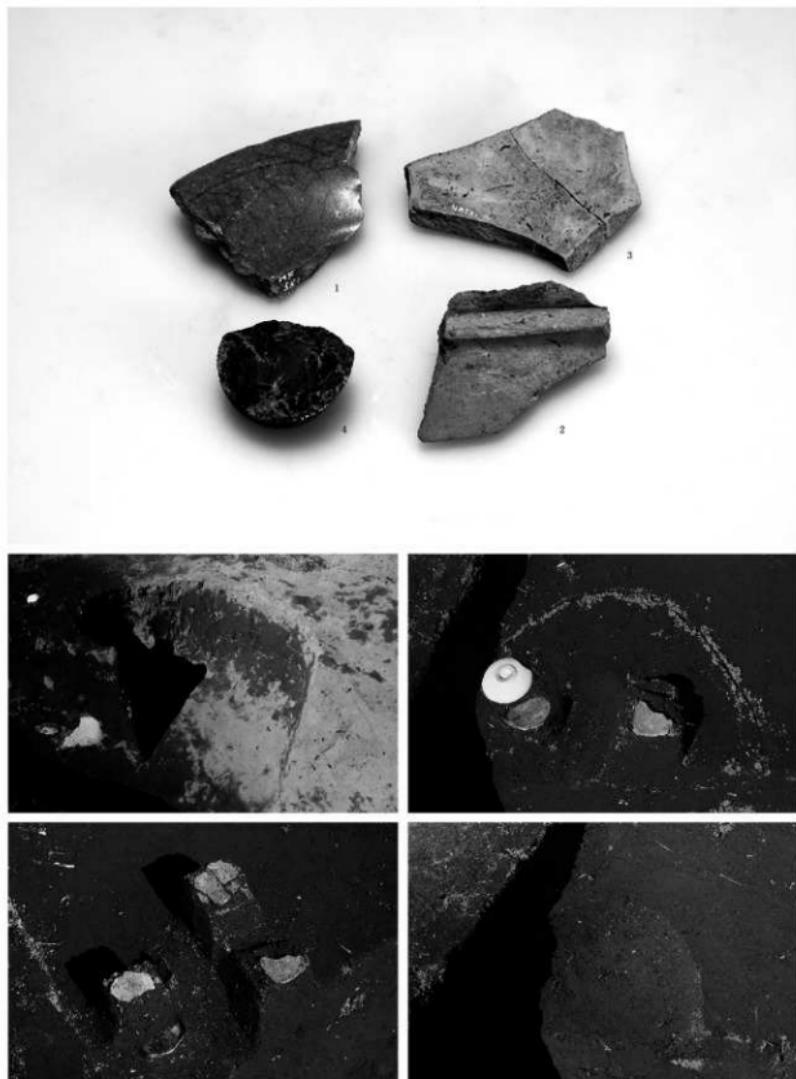


写真図版

図版 1



上左：調査区全景（東から）
上右：調査区中央から西（南東から）
下：不明遺構 14 完掘状況（南西から）



上：不明遺構 14 出土遺物

中左：土坑 8 完掘状況（南東から）

下左：土坑 9 出土状況②（南西から）

中右：土坑 9 出土状況①（南から）

下右：土坑 9 完掘状況（南から）

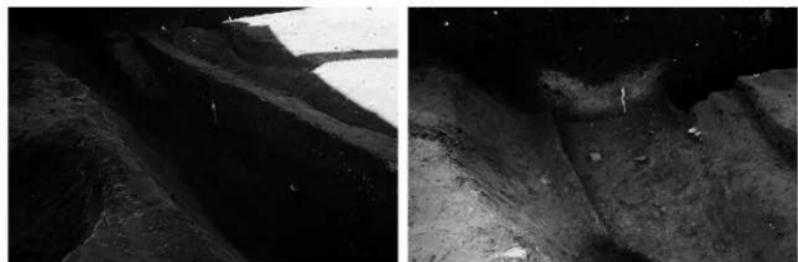
図版 3



上：土坑 9 出土遺物

中左：溝状遺構 2 完掘状況（東から）
下：溝状遺構 2、3 出土遺物

中右：溝状遺構 4、10 完掘状況（南から）



上左：溝状遺構 7 土層断面（南東から）
中：溝状遺構 7 粘土半截状況（南東から）
下：溝状遺構 7 出土遺物

上右：溝状遺構 7 完掘状況（東から）

図版 5



上：その他出土遺物①
下：その他出土遺物②

報告書抄録

ふりがな	なかこうじいせき							
書名	中小路遺跡							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第127集							
編集者名	石村 友規							
発行機関	宮崎市教育委員会							
所在地	〒880-2101 宮崎市大字跡江4200番地3							
発行年月日	2019年3月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかこうじいせき 中小路遺跡	みやざきし おけあざしまのうち 宮崎市大字島之内 かずなむじゆ 字中小路	45201	22-062	31°59' 22" 付近	131°26' 52" 付近	2018.1.9 ~2018.2.5	127 m ²	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な出土遺物		特記事項		
中小路遺跡	散布地	中世 近世	不明遺構・土坑・ 溝状遺構	青磁・近世陶磁器				
要約	中小路 遺跡	中世、近世の遺構、遺物が確認された。 近世溝は東西方向に軸をもつものが中心で、横断面は逆台形やU字形を呈する。埋土は地山砂が多量に流れ込んだ後に、シルトが混ざる砂質土が堆積している。溝状遺構7は粘土による堰が検出された。土層堆積状況から溝は堰を残したまま廃棄されたものと考えられる。 中世の落ち込みは地山砂が層状に堆積しており、自然に埋没していると考えられるが、調査区外に広がる部分も多く性格は判然としない。						

宮崎市文化財調査報告書 第127集

中小路遺跡

宅地造成に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2019年3月
発行 宮崎市教育委員会